

部下の「やる気」を上げる環境づくり

部下のモチベーションが低いことに悩まれるマネジャーの声をよく聞きます。同じく、自分自身のモチベーションが上がらず悩んでいる方もよくお見掛けします。精神論だけで「やる気」を高めるのは難しいですし、「やる気」がないときに精神論は余計に苦しく感じることもあるでしょう。「やる気」とは頑張っただけのものではなく、環境を作ることで、湧き水のように勝手に湧き上がってくるもの。本資料では、「やる気」を高める環境のつくり方をご紹介します。とても手軽に出来る方法もあるため、是非試してください。

■ 生産性の高いメンバーと、モチベーションの低いメンバーを組み合わせる

- モチベーションの低い人は、生産性の高い人とチームを組むことによって、モチベーションが高まります。ピアプレッシャー（同調圧力）により、『優秀な人と比較されて、自分のダメなところが目立ってしまう』と感じることにより、モチベーションを高める方法です。
- 懸念点は、モチベーションが低い人の影響で、生産性の高い人のモチベーションが落ちてしまうことです。また、倫理観の低い人であれば、他のメンバーが行った成果を、さも自分が上げた成果のように見せかけることもあります。導入する際は、「誰がどの仕事を行い、どの成果を出したか」を明確に可視化することが必須です。成果が出ていないこと、サボっていること、を一目で分かるように業務を可視化してください。その為、チームで連帯責任を取るような運用はおススメ出来ません。
- 業務・成果の可視化が難しい場合は、隣の席に座らせるだけでも効果を発揮します。優秀な人の横に座るだけで13～15%程度、生産性が上がると言われています。

■ 集中する・没頭する環境をつくる

- 様々な研究でも、従業員の生産性・倫理観と集中できる環境との相関関係は実証されています。集中力を高めると、モチベーションが上がり、生産性が高まります。倫理観の低い社員でも、集中力が高まる環境をつくることで有害な行動が減ります。
- みなさんも仕事がやたらはかどるカフェなど、特定の場所があるかと思います。つまり、部下の集中力を高めたい場合は、まずは職場を見渡し「散らかっていないか？」「集中力を削ぐようなモノがないか？」を確認しましょう。
- 但し、環境も大事ですが、のめり込めるような業務を作ることも大事です。つまり、「集中し易い職場づくり」×「のめり込むような業務づくり」が必要です。普段行っている業務の中で、何故か没頭してしまうような業務がないか振り返り探してみましょう。

■ 従業員の集中力を高める 3つのポイント

➤ 仕事の意義を感じさせる

自分の行っている業務が有意義だと感じることで集中力が高まります。自分の行動が誰かの役に立っている、誰かが助かっている、誰かが喜ぶ、成果に繋がっている、などを分かり易く明示します。成果に繋がるのかよく分からない資料作りや、無駄だと感じている会議に出席することなど、振り返ると日々のルーチン業務の中に、有意義だと感じられていない業務はありませんか？

➤ 正当に評価されていると感じさせる

自分が正当に評価されていると感じることで、集中力は高まります。評価というと賞与査定などの人事評価を想像する方が多いと思いますが、より日々の業務をイメージしてください。何気ない業務の中で、「あなたの、こういうところは凄いやね」など同僚・上司に褒められたりすることで、人との繋がりを感じていきます。つまり、どれだけ上司・同僚との「繋がり」を感じられるかが評価のポイントです。

『うちの会社は頑張っても大した金額を支払えない』と悩むマネジャーの方に多くお会いしますが、エンゲージメントと賞与金額の相関性は低いことは実証されています。金額ではなく、しっかりと評価されていないストレスの方がはるかにエンゲージメントを下げる結果に繋がります。

➤ 裁量権があると感じさせる

1人前と認め、ただ上司の指示に従うのではなく、自分の頭で考え行動する人だという感覚を持たせることで集中力は高まります。言われたことに、ただ従えばよいといった感覚が徐々に日々の集中力を削ぎ落とし、結果モチベーションと倫理観を低下させます。

■ 集中力を高めやすい性格適性

➤ 仕事の意義を感じることで集中力が高まると前述しました。この仕事の意義を感じやすい性格適性があります。ある社員のモチベーションがとても高い場合、会社（マネジャー）の影響が50%、本人の性格に寄るものが50%だとイメージしてください。つまり、大した努力をしなくても勝手にモチベーションが高まる性格の人がいるということです。以下の性格因子が高い方が、該当者です。

- ◇ 誠実性（目標に向けてひとりでコツコツと行動する特徴）が高い人
- ◇ 外交性（初対面の人が多く集まるような場を楽しめる特徴）が高い人
- ◇ 神経症的傾向が低い人（メンタルが強く、細かなことなど気にしない特徴）
- ◇ 積極性が高い人（指示がなくても自主的に行動する特徴）

この4つの性格因子のうち、外向性以外の3つはメンタルトレーニングで高めることが出来ます
